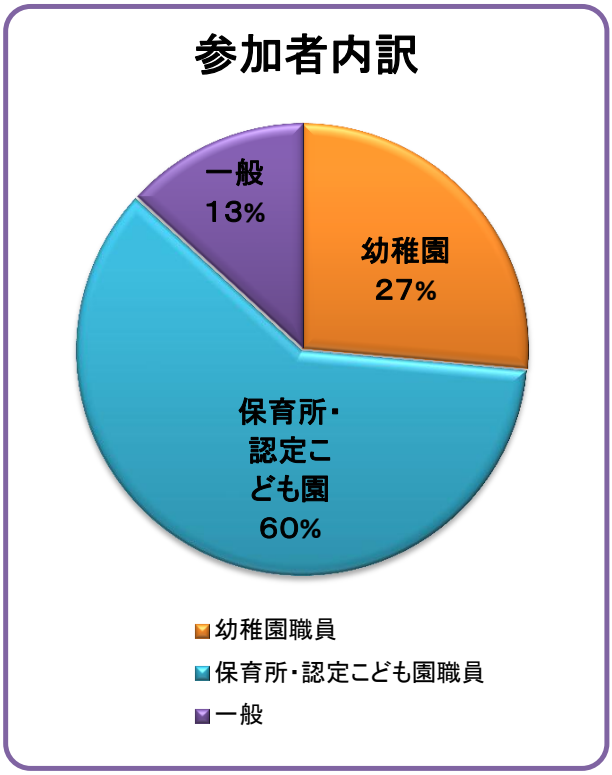
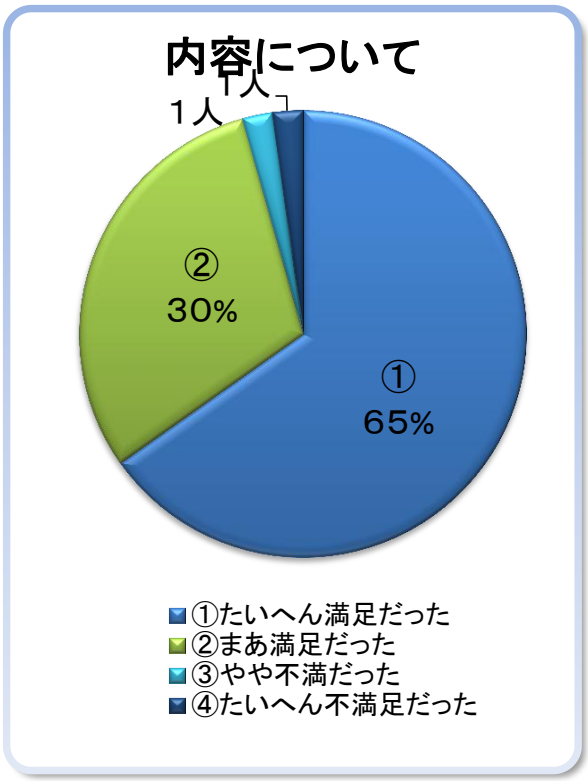
平成２７年度第３回西脇市幼保交流研修会

～アンケート集計結果～

参加人数
53名

平成27年7月11日（土） 13:30～15:00
西脇市総合市民センター　大研修室





主な感想

・お話を聞かせていただきながら、毎日かかわっている園の子どもの顔・行動、その保護者の方々の顔が思い浮かんできました。本当の「寄り添う」の意味を深く考える良い時間となりました。向き合わず寄り添い、ともに歩んでいけるよう、明日からの保育にいかしていけるように努めたいと思います。

・障がいのある子や保護者へのかかわり方を見直せるとてもよい機会になりました。「寄り添い」を大事にかかわっていきたいです。

・障がい児を持つ親の気持ちの動きはよくわかりました。子どもの障がいについて、もう少し詳しく具体的事例を聞きたかったです。次の機会には、その子の状況・様子・状態、それに対する保育士としての、保育者としての接し方・対応、保護者に対しても、保育士・保育者として園での接し方や対応の仕方、現場から、保護者への寄り添い方など聞きたいです。

・子どもの発達について、幼・保職員が共通理解していける機会になったことはとても良かったと思います。子ども理解をしっかりしていくことは、何より大切なこと。その上に、保育をしていかなければならないと痛感します。

・本日はありがとうございました。具体的に講演していただいたので、とても分かりやすく勉強になりました。私が担任している子ども達の中にも、心配な行動をする子がいます。その子が、今何につまづいて困っているのか、よく見ていこうと思いました。

・とても分かりやすく、乳幼児期の子どもの発達など納得しながら研修させていただきました。集団生活を初めてする乳幼児。大人（保護者）の存在は大きいです。その役割は大きいですね。障がいや発達状況の遅れのある子の気づきを見つけるのも保育現場にいる保育士や教諭です。保護者とも寄り添って、一緒に子どもの発達（自分らしく生きること）を願っていきたいです。ありがとうございました。

・有意義な講演をありがとうございました。障がい受容の必要な保護者に対しては向き合うのではなく、保護者の思いに寄り添うことの大切さを改めて考えていかなくてはならないと思いました。

・子どもたちの持っている力を保育者が信じること・支えることがとても大切だということが分かりました。子どもたちは大事にされた経験から人を大事にするようになるので、保育者が子どもたちにその経験を与えていくことが大切だということが分かりました。この研修で学んだことをこれからの保育に生かしていけるように頑張りたいと思います。